

レジジャーキャリア研究における趣味 への参入の位置づけ

2021年3月12日 2020年度レジジャー・スタディーズ部会

杉山昂平(東京大学大学院情報学環 特任研究員)

発表の概要

- 趣味への参入という現象
- 視点:レジャーキャリア
- レジャーキャリア研究における趣味への参入
- 他者主導の参入から自己主導の参入へ

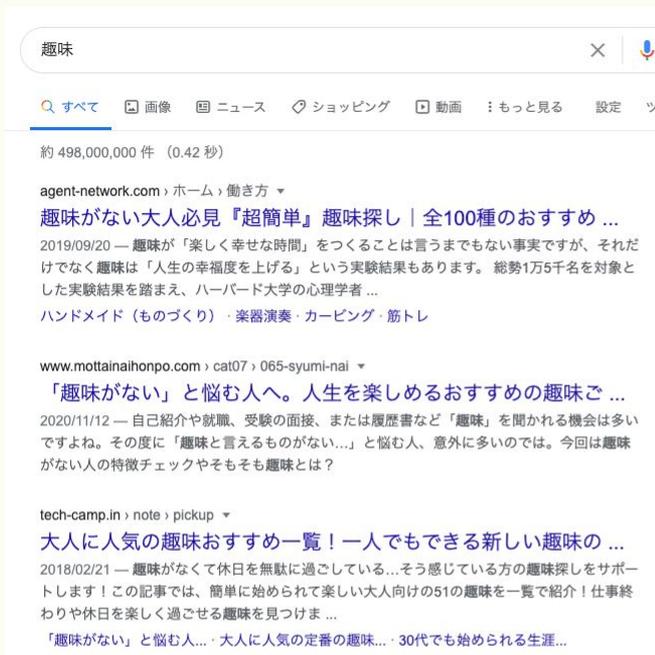
1. 趣味への参入という現象

人々が趣味へ参入するとき

- 「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」では、10代の30.8%、20代の25.4%、30代の15.2%がコロナ禍において「本格的な趣味」に新たに挑戦していた(内閣府 2020)
- 退職後の高齢者にとって、趣味は仕事に成り代わって生活リズムを提供し、生活の質を向上させる(Jones & Symon 2001)

→趣味への参入可能性は社会のウェルビーイングにも寄与する

参入できないものとしての趣味



- Googleで「趣味」と検索すると、趣味がない人に向けた趣味一覧サイトが上位に表示する
- 「趣味がない」ことがひとつの悩みとして存在している

→ **人々はいかにして趣味に参入できるのだろうか？** それはこのようなWebサイトの情報提供で事足りるだろうか？

2. 視点:レジジャーキャリア

シリアスレジャーとしての趣味

- レジャースタディーズにおいて趣味はシリアスレジャーの一種とみなされる (Olmsted 1993)
- 「アマチュア、趣味人、ボランティアの中核的な活動を組織立てて追求することであり、彼・彼女らにとって大変価値があり、面白く、充足をもたらすものであるため、典型的な場合として、専門的な技能、知識、経験を組み合わせ習得し、発揮する**レジャーキャリア**を歩み始めるもの」(Stebbins 2015: 5)

→趣味の特徴は**継続によって可能になる専門的な楽しみ方**にある

レジャーキャリア

- 「アマチュアや趣味人、ボランティアが余暇活動を行い、やり遂げ、時には仕事にする道筋や経路」(Stebbins 2020: 72)
- ステビンスは5つの段階があると主張: beginning → development → establishment → maintenance → decline (ibid.: 73)
 - beginning: 活動への興味が根付くまでの段階
 - development: 活動への興味が根付き、活動がある程度、習慣的・組織的になる

→ 趣味への参入は **beginning → development** の局面

3. レジャーキャリア研究における 趣味への参入

どのようなレジャーキャリア研究があるか

- ライフヒストリーの聞き取りによってレジャーキャリアが明らかにされた趣味は様々な存在する:カヤック、サーフィン、ローンボウルズ、ヨガ...

こうしたレジャーキャリア研究のなかで...

- **趣味への参入を主題にしたのはKraus(2014)のみ**
- **ただし研究結果の一部に趣味への参入が記載されているものはそれなりに存在する**

趣味への参入を部分的に扱った研究

- カヤックへの参入 (Bartram 2001)
 - もともとラフティングなどの水上スポーツをやっていた際にカヤックを
目にしたという場合が多い
 - カヤックを始めるには何らかの入門コースに申し込むのが典型的
- サーフィンへの参入 (Beaumont & Brown 2015)
 - 幼少期に父親や地元の男性に連れられてサーフィンをさせられた場
合が多い

- ローンボウルズへの参入 (Heuser 2005)
 - 地元のクラブに勧誘活動された、配偶者に誘われた、家族を喪ったり怪我で他のスポーツができなくなったりしてローンボウルズを選んだ
- ヨガへの参入 (Patterson et al. 2016)
 - はじめてヨガを関わるようになったきっかけは、友人や両親の誘いが多く、他に職場の同僚や先生の誘いも
 - 健康上の課題を抱えており痛みを和らげる方法を欲していた人も多い

趣味への参入を主題にした研究

- ベリーダンスへの参入 (Kraus 2014)
 - 偶発的要因と個人的背景
 - 同性の友人をつくりたくなった
 - 他のダンスを経験していて別のダンスをやりたくなった
 - 同じダンススタジオでベリーダンスが行われていた
 - 仕事の運動不足を解消したくなった
 - ライフイベント
 - 子どもの自立、離婚...

先行研究をふまえた考察

- **先行研究では、趣味へ参入した契機のほとんどが「勧誘」だった**
 - 実際に社会において、趣味への参入は他者からの勧誘がないと起こりえないのだろうか？
 - それとも、参入しようとする主体性についてインタビューでは質問していないのだろうか？
- Kraus (2014) は趣味への参入を「動機」で説明していた
 - 動機があっても、ベリーダンスがアクセス可能な状況になれば参入することはできないだろう

4. 他者主導の参入から 自己主導の参入へ

趣味へ参入しようとする主体性を研究する

- 現状、趣味への参入が「勧誘」によるものだとしても、本人が参入のために取り得る行動のレパートリーを探究しなければ「参入できないものとしての趣味」の課題は解決しない
- いくら動機があっても、実際にその趣味にアクセスできなければ趣味へ参入することはできない

→ 新たな趣味の探索行動に関する研究が必要ではないか

「ダブリング」の可能性

- dabbling = 「ちょっと手を出す」「かじる」
- **他の人がシリアスレジャーとして追求している活動について、初心者になる前にカジュアルレジャーとして遊びでやってみること**

(Stebbins 2020: 75)

- YouTubeのチュートリアル動画を見る
- 教室の見学・体験コースを受講する
- 道具を貸してもらって1日だけやってみる.....

→ 趣味への参入を可能にするダブリングとはどのようなものか？

今後の検討点

- 学習科学における「興味探索」論との接続
- 誰を対象にするか（学生、会社員、高齢者、によってダブリングの内容も変わってくるだろう）
- データ収集方法をどうするか
 - インタビューとして「趣味へ参入できた際にどんなダブリングをしたのか」を回顧的に尋ねる
 - 実験として「これから趣味へ参入するとしたら何をするのか」を計画してもらう

参考文献

- Bartram, S. A. (2001). Serious Leisure Careers Among Whitewater Kayakers: A Feminist Perspective. *World Leisure Journal*, 43(2), 4–11.
- Beaumont, E., & Brown, D. H. K. (2015). ‘Once a Local Surfer, Always a Local Surfer’: Local Surfing Careers in a Southwest English Village. *Leisure Sciences*, 37(1), 68–86.
- Heuser, L. (2005). We’re not too old to play sports: The career of women lawn bowlers. *Leisure Studies*, 24(1), 45–60.
- Jones, I., & Symon, G. (2001). Lifelong learning as serious leisure: Policy, practice and potential. *Leisure Studies*, 20(4), 269–283.
- Kraus, R. (2014). Becoming a belly dancer: Gender, the life course and the beginnings of a serious leisure career. *Leisure Studies*, 33(6), 565–579.

- 内閣府 (2020). 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査.
- Olmsted, A. D. (1993). Hobbies and Serious Leisure. *World Leisure & Recreation*, 35(1), 27–32.
- Patterson, I., Getz, D., & Gubb, K. (2016). The social world and event travel career of the serious yoga devotee. *Leisure Studies*, 35(3), 296–313.
- Stebbins, R. A. (2015). *Serious Leisure: A Perspective for Our Time*. Transaction Publishers.
- Stebbins, R. A. (2020). *The Serious Leisure Perspective: A Synthesis*. Palgrave Macmillan.